

= 071229 - 080105_南アルプス南部縦走 =

【期日】07/12/29 - 08/01/05 : 山中 6 泊 7 日

【メンバー】

見ればみるほど 30 ' s の面々



まゆた

CL/食糧(C3/C6)



荒キチ

SL/食糧(C1/C5)



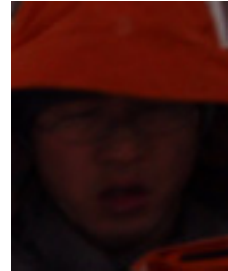
ケムンパス

装備/通信



にっしー

食糧(C2)/記録



パイナポー

食糧(C4)/記録/
気象

【行程】

[移動日:12/29(土)] 京都_20:00 = 沼平_08:00

[初 日:12/30(日)] 沼平_09:30 - 13:30_聖登山口 - 14:30_出会所小屋跡:C1<4H00M
+1H00M>

[2日目:12/31(月)] C1_06:20 - 聖岳東尾根 - 白蓬ノ頭(2632.4) - 13:30_co.2630m 付近:
C2<7H10M>

[3日目:01/01(火)] C2 停滞 C3<0H40M>

[4日目:01/02(水)] C3_07:00 - 東聖岳(2880) - 奥聖岳(2978) - 09:50_前聖岳(3013)
- 13:30_兎岳(2818) - 小兎岳(2738) - 14:35_co.2738m 付近:
C4<7H35M>

[5日目:01/03(木)] C4_06:30 - 07:30_中盛丸山(2807) - 08:30_大沢岳(2819) - 09:20_百
間洞 - 10:30_百間平 - 13:30_赤石避難小屋(co.3085):C5 <7H00M>

[6日目:01/04(金)] C5_06:20 - 06:30_赤石岳(3120) - 小赤石岳(3070) - 07:50_大聖寺
平 - 荒川三山:10:25_前岳(3068)-11:30_中岳(3083)-12:30_悪沢岳
(3141) - 丸山(3032) - 14:00_千枚岳(2879) - 14:30_千枚小屋
(co.2610):C6<8H10M>

[最終日:01/05(土)] C6_06:20 - 10:40_榎島 - 14:50_沼平 = 京都<4H20M+4H10M>

【計画】

『真冬の毛勝へゆきたい』

ささやかな想いがわたしのココロから消えることはなかった。そしてこの年越、ついに
チャンス到来。バツグンの暦である、最大9日間のまとまった時間が手に入った。

秋口、ザックリと計画を始める。奇質なメンバーが集まり大枠が固まったころ、期待以上の、それも景気好過ぎるくらいの冬になっていた…。そして、今年も残すところあと数日となり、年末年始の予想天気図があちらこちらから発表される。いずれも、凄まじい荒れ模様。

決断のとき。未練タラタラではあるが、南アへ転進することにした。雪をまとった深い山々で、このタカラのような時間を最大限活かすべく、南の冬にドブプリ浸かる超欲ばり長期縦走へ挑戦しよう。

【報告：にっしー・パイナポー/まゆた一部補筆】

[移動日：12/29(土)]

20:00 京都駅集合

京都東 IC - 菊川 IC - 国道 473 - 閑蔵駅周辺にて落石により通行止め -
国道 362 - 静岡市(給油) - 県道 189 - 畑薙第一ダムゲート

毛勝に備えて 9 日間もの大連休を取っていたため日程的には余裕があった。初日の悪天候を避けるために、一日遅らせて 30 日からの入山とした。しかし、パイナポーという疫病神を抱えるこの隊はアプローチからうまく行くはずがない。牧之原から榎島まで北上する県道を車で向かったのだが、畑薙ダムの手前数 km まで来て「落石のため通行止」との看板に止められた。そこまで何の公示もなく、迂回路の表示も何もない。ただ先へは進めないという看板に出くわし、僕らはひたすらどうしてよいか迷った。とりあえず強行突破だと看板の脇を進むが、しばらく進んだ地点でブルドーザーでないと除去が困難な落石帯に遮られ、意気消沈とする。色々遠回りしたせいでガソリンも不足気味、仕方なく静岡市まで一度給油に戻り、違うルートから榎島を目指した。結局たどり着いたのは 夜も明けた 8 時頃であった。何のために一日遅らせたのかよくわからないが、仮眠することもなく入山の準備をする。

[初 日：12/30(日)]

08:00 畑薙ダム、ゲート到着

09:30 出発(小雪舞う中での出発、気温 6)

10:25 林道 4km 地点

11:30 中ノ宿吊橋

12:35 赤石渡

13:30 聖岳登山口

アプローチシューズなどの荷物をデポ

14:30 出会所小屋跡、幕営

天気図、夕食(八宝菜丼)

18:30 就寝



今日 12 月 30 日から年明けの 1 月 1 日まで、強い冬型との予想であった。沼平で十分寒く、雪がちらついている。予想していた天気と違う。登山道までは 14km でとても長い。林道歩きは今回の核心の一つだ。歩くにつれ雪は激しくなり、道にはすっかり雪が積もっている。南アルプスで正月だし、雪なんか林道にないと思っていたので驚く。途中、靴ずれ敗退の人とすれ違う。確かにプラ靴での林道歩きはつらく、にっしーも靴ずれを作って、テーピングをする。アプローチシューズを持ってきていたパイナポー君は賢いなー。登山道入口にいらないものをデポする。登山道はトレースがあるものの全くの雪山だった。これじゃ北アルプスと変わらんとと思う。急坂を越えて、出会所小屋跡に着く。ここでは水を取れたのでありがたかった。風の音も聞こえ、夜も雪が降っていた。かなりの冬型で南まで影響が来ているようだ。パイナポー君の予報によるとしばらく冬型が続くとか先が思いやられる。人と荷物でぎっしりのテントの中は意外にも温かかった（風邪をひいてることを配慮されて真中に入れてもらったのが大きい）。

一方、端に寝たパイナポーはこのように感じた―毛勝から転進したことにより防寒具をいくつか減らしていたのだが、この日の夜は樹林帯の中でも風が強く、南アルプスといえど冷えこむときは寒いのだと思い知らされた。

[2日目:12/31(月)]

天気：雪、強風

04:05 起床

朝食（焼きそば）

06:20 出発

11:15 ジャンクションピーク

12:30 撤退パーティのテン場通過（白蓬の頭までの登りの手前）

13:30 白蓬の頭通過後、尾根の陰にて幕営

16:00 気象、夕食（タイカレー）

19:00 就寝



翌日、樹林帯の中をひたすら高度を上げる。はじめのトラバース気味の登りを終えて 2100m 付近へたどり着くと、雪で埋もれてはいたがトレースに合流した。一晩で 20cm くらいは積もったようでちょっとしたラッセルが続くが、ワカンをつけるほどではなく順調に高度を上げていく。途中の稜線地形では樹木の合間を抜ける風が冷たく、森林限界より上は予想以上に厳しそうだった。2250m のジャンクションピークを越えると斜面は緩やかになり、地形を把握しづらくなる。赤ペンキのマークがかなりの頻度で付いており、トレースがあるために迷わずに進めるが、下山であったらかなり難しい地図読みになりそうだった。GPS を持っているがやはり基本は地図読み、今回のメンバーは皆が同じレベル

でしっかり位置を確認して互いの意思交換をしながら進むことができたのは幸いであった。

翌日以降のことを考えて、できるだけピークに近い位置で幕営したかったので、白蓬ノ頭の先を目指す。手前に連続したテントが二張あり、まゆたが聞いたところによると、ピークを目指したが強風のため白蓬ノ頭のすぐ先にて敗退してきたらしい。実際、白蓬ノ頭を越えると樹林帯にもかかわらず、かなりの強風が吹いており指先が凍える。風のやんだ小地形を求めて歩いていると、なんと荒キチの鼻先が凍っている。慌てて指摘すると、パイナポーも同様に凍っていることを知らされる。二人とも眼鏡が曇るために鼻と口まで目出帽をかぶらずにいたせいではあるが、わずか 10 分足らずの間に凍るという悪状況を身にしてみte感じた。この日は稜線の屈曲点の風の弱い場所でブロックを積んでの幕営となった。しっかり整備したこともあって、風の音が聞こえてもテントの中は安定して過ごすことができた。世間では大晦日なのだが、今回の合宿は軽量化優先のために特別メニューはなく、普段と同じ夜をすごした。この日取った天気図は強い冬型、天気予報でもこれが明日も続くことを告げており、雪はずんずん降り積もって、ゾンデとかが埋もれていく。にっしーはオーバー手袋に穴を発見したのでリーダーにお裁縫道具を借り、針仕事に精を出す。明日は停滞を視野に入れて様子を見ようとのことで眠りについた。

[3日目:01/01(火)]

天気：雪のち曇り、午後から時折晴れ間が見える

08:00 起床

朝食（雑炊）

09:10～ ラジオで気象情報を聞く、相変わらずの冬型、低気圧強し

12:00 天気予報、明日から冬型が緩むとのコト

1/3～5 まで曇り時々晴の予報、好天を期待できそう

13:10 トレースを付けに出かける

稜線の手前に幕営した跡あり、既に

下山の模様

稜線上の強風に即撤退

13:50 テント着

とにかく食べたり飲んだりで消耗
を回復

夕食（タコ飯）



2008 年元旦、起きてみるとなんと 8 時過ぎ。選択しようもなく停滞日と決まる。個人的にはこの山域で冬型気圧配置なのに雪が降っているのだから稜線の状態はあまりよくないだろうと停滞を大いに喜ぶ。たまの寝正月も罰は当たらないだろう。小餅の入ったお雑煮と紅茶などの嗜好品をいただき、ラジオを聴いて世間の様子を探る。槍平小屋で雪崩事故が起きたことを何度も伝えるニュースを聞き、プレ冬のときに危なそうに見えた中崎尾根

取り付きの谷だと直感的に感じたが、槍平小屋までデブリが届くのだから相当な積雪量があったのだろうなどと憶測を交えて皆で話した。やはり転進は正解だったという大方の流れの中、それでもド M なパイナポーは毛勝へ行きたかったと告白する。相変わらず風の音は絶えないが、昼頃から時折テントに日が射し、晴れ間をちらつかせている事がわかると、停滞したことを少し後悔してきた。しかし翌日のために樹林限界までトレースを付けに出かけると、一歩樹林を出ただけで予想以上の強風と寒さにはじき返され、すぐさまテントへ引き返す。今日は停滞でよかったのだと実感した。わずか 30 分の行動にもかかわらず、前日より消耗していた。夕方の天気図は相変わらずの冬型、しかし予報によると明日から少しずつ弱まるらしい。北岳や甲斐駒に入っている他のパーティはどうしているのだろうか、心配しながら眠りにつく。フライにベンチレーターがなく、結露の凍結したせいで換気が困難で、テント内はかなり息苦しい。このフライはあまりよろしくないなあ。

[4日目:01/02(水)]

天気：快晴、気圧図は冬型

04:00 起床

朝食（雑煮）

パイナポー、コンタクト付けられず
に時間をロス

07:00 出発（アイゼン装着）

09:50 聖岳山頂

11:00 兎のコル

雪多く、ザックを置いてのラッセルが続く

13:00 兎岳避難小屋

13:30 兎岳ピーク

14:35 兎岳～中盛丸山間の鞍部にて幕営

16:00 気象：少し緩んだ冬型、明日以降も晴れそう

夕食（マーボー丼）

19:00 就寝



今日はみんな早く起きた。テント場から富士山ときれいな朝やけがみえた。風もほとんどなく快晴。すぐ尾根筋にでると、景色は最高で大きな赤石岳がよく見える。トレースは途中で消え、ラッセルを交代しながら順調に進み、聖岳山頂に着く。とりあえず1個目のピークが踏めた！！360度の展望で、キラキラ光る駿河湾、富士山から、これから行く山々までがきれいに見えた。10年前くらいの夏に来た時も富士山がきれいだったことを思い出す。遠く離れて後続パーティが上ってきているのが見える、出会所小屋で同日幕営していた二人組のようだ。しかし赤石へ進むのはおそらく我々だけだろう。世間の休みは明日で終わるのだが、社会からはじかれた我々にそんなものは関係ない、ただひたすら休み続け



るのだ。

ここまで調子よく行けたので気をよくしてこれならば百間洞までいけるのではと思う。聖岳からの下りはやや心配した所ではあったが、行き詰まることもなく順調に進む。しかし、2796m の鞍部から兎岳までが核心であった。膝上、時に腰くらいのラッセルの上にアップダウンが続き、距離が稼げない。空身でトレースをつけに行ったりしながら交代で

汗をかきかき、じりじりと進む。かなり消耗してようやく兎岳の避難小屋に着く。ここは埋もれていて掘り出すのも大変そうだったので、大休止して進む。ここからはクラストぎみでテント場を探しながら順調に進む。2738m 付近?の吹きだまりに設営する。風もなく快適なテント場に思われたのだが朝夕は吹き上げの風が強く、トイレに行くと雪まみれで死にそうになった。今日はアウターのパンツに穴をあけてしまったのでまたもや針仕事に精を出す。天気は明日ももつようだ。先に進むのみだ。

[5日目:01/03(木)]

天気：快晴、風はあるが、季節風ではなく谷からの吹き上げ

今日も快適な気候になりそう

04:00 起床

朝食（トマトチーズリゾット）

06:30 出発

07:30 中盛丸山

08:30 大沢岳、携帯の電波入るので天気図ダウンロード

09:20 百間洞山の家

手前の下りで荒木負傷、ここで少し
手当てする

10:30 百間平手前の小ピーク

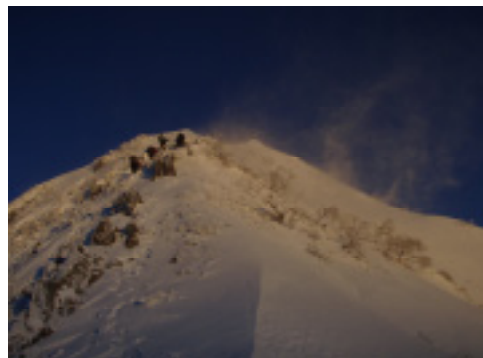
11:35 赤石手前の小ピーク

ここから最後の急登

13:30 赤石避難小屋到着

夕食（五目飯）

18:30 就寝快晴、稜線上の風は強く、高度のせい気温は低かった



1月3日、やはり快晴。テントへ少し強めの谷風が吹く、冬型が緩んできている証拠だろう。こんな日が続くうちにとにかく先へ進もう。中盛丸山を越えてから、稜線通しで赤石方面へ進むか、一度谷へ降りてから登り返すかで少し悩むが、谷中の雪がそれほど多くなさそうだし、谷から上へ伸びる小尾根には風紋が見えることから、ある程度クラストして



いるだろうと考えて、百間洞山の家まで一度降りることにした。荒キチ、につしーの二人とパイナポー、まゆた、ケムンパスの三人は少し離れて降りていたのだが、途中で既にかなり下のほうまで降りていた荒キチが見えた。はえ～な、と思って近づくとどうもおかしい、流血している。なんでも尻セードで下降していて止まらなくなり、回転して鼻頭を切ったようだ。直接見たにつしーによると結構派手にやったらしい。

につしー談—無事で良かったが、目の前の出来事にすごく肝を冷やした。

とりあえず簡単に止血して小屋まで降りる。しばらく落ち着くのを待って様子を見るが、他のダメージもなく、失ったものは 1/25000 の地形図：280 円、度付きサングラス：一万円、休み明けの上司の信用：プライスレス、となった。さらに、ここで大きな事件が発覚した。歩いている間ずっと疑問に思っていることがあった、パイナポーのスコップに今朝から泥が付着していたのだ。昨夜の幕営地は 1m 以上の吹き溜まりで地面まではとても掘り進めそうになかった、仮に掘り進んだとしてもハイマツがあり、おそらく砂地だろう。何故泥が付いたのか、パイナポーは悩み続けていた。特にきっかけがあったわけではないが、荒キチの治療中にパイナポーの頭を最悪の考えがよぎった。昨夜トイレの脇に置いておいたスコップはパイナポーのものだった。そう、あれは泥ではなく、う。こ。だ。テンション超下降の中、日が昇り気温も上がってきて融解の危険性が高くなる。なんとか実害が出る前に取り除かねばならない。荒キチの止血の横で、パイナポーは雪でひたすらスコップを掃除した。きわどいところでのミッションコンプリートだった、冬山はやはり危険が伴う。

様々な危険を乗り越えた後、百間平まで登り返す。はじめの樹林帯でしばらくラッセルがあったが、すぐにクラストした雪面に出て、ハマることなく通過できた。その先の赤石までの登りは夏道から外れ、岩石帯の合間を縫ってひたすら高度を上げていく。最後は左からトラバース気味に登るが、雪質は安定しており問題なく稜線へ出ることができた。ここで時間は 13:30、赤石のピーク周辺にもまったくトレースがなかったことから最終日の千枚岳からの下山路もトレースがない可能性があったので、パイナポーは設営が遅くなっても大聖寺平まで進みたかった。いろいろ話した結果、この日は赤石避難小屋で泊まることにした。まあトレースがなくても予備日を使えば下山できないこともないので、余裕をもって小屋泊まりというのもありだなと実感、何より居住性が違う。とはいえ標高 3000m 以上ということもあって小屋の中にテントを張ってもやはり寒い。この日が今回の合宿の中で一番寒かった、初めてダウンを着た。どうも高いものを買っても、もったいなくて使えないという悪癖がある。しかし寝るときは足元が冷えて、ひたすら動かすがまったく温まらず、2 時間程度しか眠れなかった。これも装備を出し惜しみしたことが原因で、ジャケツを足元にかけて、もっと着込めばよかったのだけど、結局持ってきた防寒服の半分くらいは使わなかった。

[6日目:01/04(金)]

天気：本日も晴天ナリ

4:00 起床

6:20 出発

6:30 赤石岳山頂

風強し

7:40 大聖寺平 (-18)

10:25 前岳

11:30 中岳

12:30 荒川 (悪沢岳)

14:00 千枚岳

14:30 千枚小屋

17:00 夕食 (ドライカレー)

19:30 就寝



朝、ちょっとガスぎみだった。夜明け前、ぼんやりと赤く染まる空と山々を望みながら赤石の稜線を進む。今回で一番きれいな景色だった。快調にすすみ、大聖寺平につく。晴天だがマイナス18度。凄い低温だ。ほぼ稜線通しで前岳直下に行き、雪の状態を見て夏道を通って前岳頂上に着く。あまりにも景色がきれいで、余りそうなレーションを食べまくり、写真を撮りまくる。少し下って登り返し、中岳の避難小屋をとる。これは冬も使えそう。少し細尾根を下り、悪沢岳へと登り返す。少しわかりにくいけど夏道通し。ようやく、悪沢岳山頂につく。今まで来た山々が遥かに見渡せて、南アの北の方の山々とか、富士山とかよく見える。本当にここまで来たよ、来てよかった。と感動する。ここからはトレースがついていて、懸念していた千枚岳付近も問題なく通過する。ここらへんから、い



まいち、あっていないプラ靴のせいで足が痛くなりゆっくりと進む。千枚からの下りは雪崩の危険箇所ではあった。しかし、降ってから2~3日経ってるので比較的しっかりしてるのではとも思った。深い雪の下りを進む。ようやく小屋に着く。ここまで行けるとは思っていなかったのが正直驚きだった。きれいな小屋で富士山がきれいに見える場所にあった。みんなのまだこんなものかというような思わぬ酒のあてが飛び出して最後の夜を贅沢に過ごした。

[最終日:01/05(土)]

天気：晴れ、少し雲が増えたが好天を維持

04:00 起床
朝食（ラーメン）
06:20 出発
07:40 見晴台手前
08:25 急な下り、雪が少なくなってきた
（ケムンパス、わかん外す）
10:30 林道
10:40 榎島
11:06 赤石沢
14:50 畑薙ダムゲート

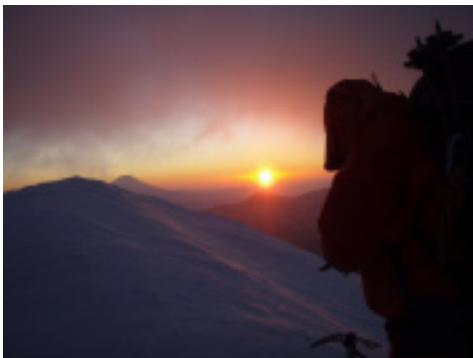


1月5日、長い下山の日だ。特に困難はないものの、樹林帯の下山はかなり方向感覚をつかみづらく、トレースがなかったらラッセルと地図読みで一日ハマっていたと思う。悪沢岳ピークハントの人たちに感謝だ。とはいえ、単調な道をひたすら下り、4時間もかかってやっと林道へたどり着いた。ここから本当にしんどい林道歩きだと気合を入れ直す。途中、聖岳登山口でプラ靴を脱ぎ、デポした軽登山靴に履き替えるが、それでも長く続くと苦しい。畑薙ダムのゲートへたどり着いたのは15時頃、最後の2kmは心身共にぎりぎりだった。皆とハイタッチを交わし、今回の縦走の成功を大いに喜ぶ。詰所には、警察署の人たちの姿はなく、残っていた車も我々のものだけだった。

早々と装備を片付け、無料とは思えないほど良質の赤石温泉（白樺荘）で汗を流し、静岡市で回転ずしを存分に味わった。やっぱり冬山は下山するために行くところだ。京都まで帰るがにっしーの終電は過ぎていたので、合宿準備でモノが散らかったままのパナソニックの下宿で一晩過ごすこととなった。いまさらながらお餅を食べて正月気分を味わい、二人だけでこっそり祝杯をあげて眠りについた。

【所感】

【まゆた】



毛勝断念—コレについては、かなり辛いモノがあった。その動機が「北の雪にまみれてみたい」だけに、木っ端微塵にされて元々の覚悟であった。どれほど歯が立たないものなのか、体当たりしてみたかった。しかし、今回の予想では林道どころか、魚津にすらたどりつけるかわからない。また、仮に入ることができるとしても、全員一致の場合のみ決行し得る、と考えていたので、一人でも同意がとれない以上、南への転進はパーティとしては当然といえた。

ならば、とわたしの個人的秘かな目標に、この数奇者方を道連れにしようと企てた。わたしを育ててくれた南アルプスのでっかいまっ白な山々を心底たのしんでもらいたい。果たして、皆の満足そな横顔を見てはシメシメとほくそ笑んだものである。

聖登山口/榎島までの林道は、3年前と2回目である。今度改めて歩いて、途中までは意外に早いと感じたが、やっぱり長かった。が、帰りはもっともっと長く、浮腫みきった足を必死で持ち上げ、前に出し続けた。痛みに耐えながら、それでもココロのうちは熱く、充実感に満たされていた。

元日に寝過ごしたことは、アタマが上らない…。結果がいずれであれ、申し訳ないことをした。初チンとなり、「こんなことなら仕事を持ってくれば」などとツマラナイ考えがよぎるが、どうやってヒマを潰そうか、と悩むこともなく一日過ぎてしまった。地図を広げれば山やにヒマなどない、ということが証明されたようなモンである。そんな時に聞き知った槍平の雪崩事故はショックであった。記録をよく読ませてもらっていた山岳会のことでもあり、親しみを感じていた。いつ、誰の身の上に起こるかわからない、誰にでも起こり得ること。山へ入る限り、山中はもちろん備えから最新の注意が必要であると改めておもわされる。

翌日以降、日日雪山の魅力を満喫する。トレースなきまっ白な雪面に我々が足跡をつける。道は前にはなく、ただ振返れば儚くついてゆくのみだ。聖は敗退を含めれば4回目で、今回初めて晴れた。赤石稜線では夜明けの緞帳が上ってゆき、荒川では南ア北部への山並みが臨まれた。いずれもスバラシイ景色で出迎えてくれた。

また、食糧はみんな工夫を凝らし、おいしいモン、チカラの出るモン、手間ヒマかけてペミカンをつくってきてくれた。そして、軽い素材や調味料を存分に活かしていたとおもう。桜エビ、七味、コンソメ、香辛料。毎日、どれもとてもおいしかった。

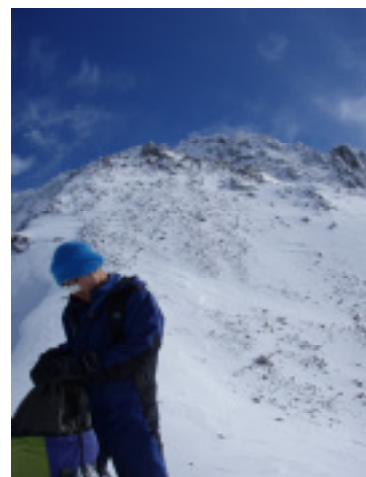
食糧も含め、共装ではみんなに助けてもらった。体力差とは云え、ずいぶん重たい思いをさせてしまったとおもう。ありがとうございました。

かやう長期で山に入る機会はなかなか得られないが、生涯の思い出になる山行になった。このことは、今回だけでは得られない経験で、これまで歩いてきた積み重ねの賜物であるとおつくづく感じる。今回のメンバーはもちろん、今まで共に歩いてきた仲間にココロから深く感謝する。

[荒キチ]

毛勝への強い想いはメンバー全員が共有し、下調べや準備を着々と進めていただけに、リーダーは最後まで悩み迷わはったでしょうし、各々が後ろ髪を引かれながらの転進となりました。しかし、サブプランながら、結果としては吉(の上に大を付けても良いくらい)と出た。今、強くそう感じています。

沼平の駐車場から雪が降り始めるといふ、覚悟してきた上



を行く強い寒波に出迎えられ、速攻で鼻先は凍り、初夜からずっと寒さに凍え、寝正月を決め込んだ元旦は森林限界上 2,3 分で息も絶え絶え。不安要素を数え出せばきりがなく、正直赤石へすら行けないのではないかと、そんな危惧を抱いたのは僕だけじゃなかった筈です。それでも誰一人口には出さない、どこか出てくる台詞は全て荒川まで到ることを前提としたものだった所に、この隊の真価が示されていたのではないのでしょうか。実際、主稜線に乗ってからは最高でした。見上げれば濃すぎて黒味さえ帯びた紺碧の空。行く末稜線は常に真白く輝き、越し方は遥か遠く、歩いてきた道程の長さを無言で教えてくれる。その中に認められるトレースは、全て自分達で刻んだもの。雪山縦走の至福が、そこには詰まっていた。兎への登り返しではまったラッセルも、今となっては良いアクセント(ど M な面々には適度な苦痛が必要なのです)。ただ、余りの楽しさにナチュラルハイに陥って、クラストした急斜面を尻セードするという愚行を犯したのは、アホ過ぎでした。案の定、制動できず鼻の頭を擦り剥いて、ご心配とご迷惑をおかけしまった事を今更ながらお詫び申し上げます。とにかく、丸一週間という長丁場を、モチベーションの高いメンバーと一緒に踏破でき、大満足です。

想いの強さで前段階から最後までずっと隊を導いてくれたねーさん、でんと構えて僕らを見守ってくれたにーさん、重い共装をものともせず常に先頭を切ってラッセルしてくれたにっしー、最年少ながら冷静で的確な判断を下しアホな会話でも盛り上げてくれたパイナポー、本当に有り難う！このビッグトレイルは一生忘れない。

[ケムンパス]

年末の天気予報は強烈な冬型であった。毛勝への思いが強かったので、南アへのルート変更については、リーダーは本当に迷ったと思う。寸前までリーダー以外の 4 名の南アへの転進意思は 2 対 2。最終的にわしが南ア派に寝返ったことにより転進決定。今回のメンバー構成では、経験不足のため毛勝では遭難しかねないと考えたことによる。

南アはなじみの薄い場所であったが、概ね予想通りの状態であった。

林道は長い上に薄く積もった雪の下がかちんこちに凍った場所があり面倒だったが、ラッセルが全くないのはありがたかった。同時期の日高の林道では同じ距離以上に渡ってワカン膝上ラッセルにデブリ超えを強いられる。

尾根に取付いてからは登攀要素はゼロだがアップダウンが大きいので体力的に苦しい。



小赤石岳付近は雪庇の張り出したやせ尾根がうねうねと続いており印象に残っている。今回はそれが朝日に染まり綺麗だったが、写真で現せていないのが残念だ。ここを歩いていた時、某氏のスコップにンコが付着していたわけだが、今後あのスコップを見るたび美しい稜線の思い出話に花を咲かせることだろう。後々のために写真の代わりに記念の品を残すとは分かっていらっしやる。

聖岳～兎岳の間の藪尾根も細くて見所があった。千枚岳手前はトレースがあったため楽だったが、トレースがなければ核心となっただろう。

その他は尾根が太っており、単調なきらいがある。雪質がプレイカブルクラストであったのも印象が悪かった。ほとんどの場所でアイゼンが効かず、ストックでも歩ける状態であったが、ごくわずかに凍った部分もありピッケルなしで登降する勇氣はなかった。

緩斜面のラッセルは一部であったが、急斜面の技術のいるラッセルはなかった。ワカンを使ったのは自分だけであった。みんなワカンなしでよく歩けるなと思ったが、体力の違いだろうか。冬山はやはり体力と天候次第。みんなのワカンはピカピカで使った形跡なし。わしのだけ穴だらけだった。

全体に小屋が多く人臭さを感じたが、なぜか他パーティとの接触はほとんどなく、トレースは少なかった。みんなはトレースを自分でつけていくことに意義を感じているようだったが、自分はあるトレースは欲しいタイプなので理解できずにいる。

荒キチが大沢岳からの下りで、アイゼンをつけて尻セードしたのは嚴重注意だ。足を骨折しなくてよかった。小さな出血のあった鼻にテーピングを当てたところ、モンティパイソンのつけ鼻おじさん風で男前が上がった写真が残され、ンコスコップとともに思い出とはなったが。

[にっしー]

今回の正月合宿は、リーダー以下、ひどい（モノ好きな）メンバーが集まり、日程も予備日入れて8日の長期となり、どんな合宿になるのか非常に楽しみだった。事前の打ち合わせでパーティー名も決まり（その名もサーティーズ）、毛勝行くぞーと大いに盛り上がったのであった。

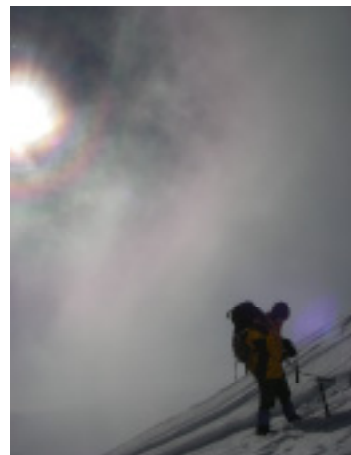
ところが物事というのはそんなにうまく行かないもので....。

天気予報が最悪だった。ま、パイナポー君がいるからしょうがないともいえる。日程の全てにおいてかなり強い冬型の天気が予想されたため、毛勝に行けば終始壮絶な雪との闘いになりそうで、南アルプスに転進を余儀なくされた。

直前になって私は風邪をひいた。それで体調悪く出発を遅らせてもらう始末だった。

先の日程や天気やいろんな要素を考えながらじっくりと日程を進めていく、長期山行の楽しみをじっくり味わえたと思います。長い縦走は久しぶりだったが楽しくて、あっという間の一週間でした。荒川まで行けたのは、年末を除けば天気に恵まれたし、ラッセルもそれほど激しいのは無かったという幸運があり、また何よりリーダーをはじめとするメンバーの士気がずっと高かったということがあると思います（アホな話ばかりしてたような気もしますが）。

いやー、本当に良い山行でした。一緒に行った皆様ありがとうございました。やはりあれだけの距離に自分たちだけのトレ



ースを刻めたと思うとやはり良かったです。景色も最高でした。

毎日食事が旨かったし、嗜好品の飲み物も大変楽しめた。

長期の山行ではいろいろトラブルも起きるので補修用具や医療セットが必要になると実感した。

長期の冬の山行ではシュラフが湿ることに対する対策が必要だ。今回はシュラフカバーとシュラフの間に吐いた呼気が原因で湿っていた。

テントシューズでは無理な寒さだったのでテントシューズの中に手袋をはいて寝た。

寒さのあまり、軽量化を軽視していたので荷物が重かった。(それでも酒を持って行った俺って...。)

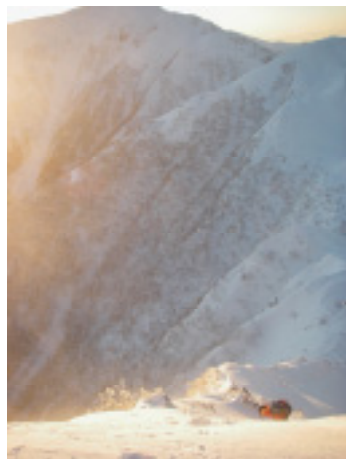
1月1日は手袋を3重にしていたにも関わらず指がやばかった。5本指のオーバー手袋の限界かもしれない。

プラ靴での林道歩きは長距離ならば非常にリスクだ。(アプローチシューズ要)

レーションをどっさり持ってきてくれた荒キチ君、パイナポーくんありがとう。

[パイナポー]

当初、今年の正月合宿は毛勝三山の縦走を考えていた。可能な限り資料を調べ、体のほうの準備もある程度整えていた。しかし直前になり、年末には大きい寒波がやってきてしばらく冬型の気圧配置が続くという天気予報であった。僕としてはかなり気合を入れた準備をしていたため、どんな天気であろうと突っ込みたかった。いかに悪天候のときでも進退判断さえ間違えなければ、次回へつなげるからだ。そういう意味で、たとえ雪崩の恐怖と戦う林道歩きだけで終わっても、毛勝への入山を試みたかった。結果的には僕以外のメンバーの全員一致で南アルプスへの転進と決まった。非常に残念ではあるが仕方ない。



今回の山行では停滞日以降の天候がずっとよかったこと、雪の状態がよかったことなど、アプローチの通行止めを除いては、これ以上ないくらいの好条件であった。正直、一日停滞を交えた時点で全山縦走は厳しいかなと頭によぎったが、決して口にせずモチベーションを保てたのはよかった。一週間ず～っと山の中ですごしたことになるが、この長い休みをとってくれたリーダーのまゆたをはじめとした4人の仲間

感謝。本当に楽しい縦走でした。

[総括]

恵まれた天候と雪の状態、融通を効かせられる日程。そして、頼もしい男前4人衆のオカゲで会心の大成功をおさめることができた。メンバーが各々役割を理解し、それ以上にパーティを前進させる強い意思でひとつにまとまっていたとおもう。ベテラン不在のパー

ィながら、それぞれの持味、得手とする分野でお互いをフォローしあい、いつも富士山に見守られながら、まさに一丸となってトレースを刻み続けた。

- ・ プラン会：2 回実施。

#1_初回結団式は某ファミレスで。計画概要と担当割、サブプランの設定を行う。

#2_直前 MT で。ルート、装備とサブプランの確認。最終決定を出発 4 日前と定める。

- ・ 行程：山深い山域で予備日 2 日取れないのは不安で、最後まで聖 - 荒川と赤石 - 聖の採択を悩んだ。聖岳東尾根、赤石 - 荒川、赤石岳大倉尾根はトレースのある可能性が高いとおもわれたが、聖 - 赤石間が未知数で、ラッセルにどの程度かかるか読めなかった。結局、時間がかかりそうな部分を前にもってき、計画最大/現場縮小で進めることにする。この懸念されたラッセルについては、聖前後 - 兎岳、百間洞からの登りに少々くらいで、全体的に雪はほぼクラストしてい、快適に歩行できた。

また、聖 - 兎間の伊那側崩壊地がどうなっているのか気になっていた。赤石、荒川の冬季尾根ルート、千枚周辺も同様であったが、いずれもザイルは出すことなく通過できた。そして、出発前数日の異様に暖かい日が続いたこと、その後の寒波。これも大きな不安要素であった。雪崩に対する思慮を一層、強めねばならなかった。

雪底については、聖 - 兎間の伊那側への張出しはまだそれほど発達していなかった。赤石稜線の静岡側へはもう少し雪底らしかったか。

冬山経験の未熟さを補うための無雪期偵察はそれなりの意味はあるといえる。冬季小屋の把握や、地形、距離感。前進するか否かの判断を適切に処理できたのは、ここにも一因あると考える。

とにもかくにも、ルート工作の面においてはそれぞれの意見を持ち寄り、メンバーで考えて前進してゆけたことに意味があり、おもしろかった。

- ・ 入山者：入山前、沼平の静岡県警山岳警備隊の詰所にて確認したところ、12/30 朝現在で、赤石岳大倉尾根に 1P、聖岳東尾根に 3P、聖から赤石にむかう単独行 1 人。ほか、茶臼へ入るパーティがあった。

出遭ったのは、林道での 2 人パーティ(靴擦れにて敗退)と、出会所小屋跡でお隣だった 2 人パーティ(東尾根後続か?)、それから白蓬ノ頭手前でテントを張っているパーティ(4 - 5 人テント*2 張)であった。声をかけてみると、聖へ向かうものの悪天候に阻まれ敗退とのコト。

- ・ トレース：聖岳東尾根取付 - 東聖岳付近、千枚岳 - 榎島間。
- ・ 天候：- 36 の冬将軍が襲撃にかかってきたおかげで 1 日停滞したものの、その後は連日素晴らしい青空に恵まれた。時折、気が向いては気温を計ってみたが、大聖寺平での - 18 が最低記録である。
- ・ テン場：C1 を除いては、富士山を借景とする絶好の幕营地であった。

C2 はうまくブロック積みと掘下げしたことで風除けできた。ただ、停滞しテントをバラすことがなかったためか、フライと本体の間に浸みっていた結露が凍結しやすい環境になってしまったせい、酸欠になりやすくなってしまっ

た。極度の低温も一因と考えられる。

C4でも同様、ブロックと掘下げを行ったが、朝方吹き上げてくる風は予想していなかった。パイナポー特製のトイレは吹溜りとなって、見るカゲもなくなりそう...前述の災難は起こるべくして起こったか!?

C5(赤石避難小屋)では3000mの凍てつく寒さを体感した。

C6(千枚小屋)では、残った行動食を大盤振る舞いで快適に過ごした。

- ・ 冬季小屋：いくつか利用可能な小屋がある。

兎岳避難小屋 今回利用せず。入口は雪に埋もれていて、掘返すのは一仕事。

百間洞山ノ家 今回利用せず。営業小屋 2F 部分、西側に階段あり。二重扉で、内部土足禁止。とても綺麗、快適そう。中へ入り確認したわけではないが、赤石避難小屋よりも広いように感じた。

赤石避難小屋 入口は縦走路寄り、ハシゴを上って 2F(引戸)。4-5 人テント*2 張くらいの広さ。

荒川小屋 今回利用せず。縦走路より外れるため、不明。

中岳避難小屋 今回利用せず。悪沢岳方向に引戸入口あり。

千枚小屋 営業小屋 2F 部分、縦走路と反対側に階段あり。入口は鉄?とガラスの 2 重引戸。内部は 2 段。最大 4-5 人テント*5 張可。

赤石小屋 今回利用せず。縦走路に面してハシゴあり、入口はガラス窓(引上戸か?)。内部は 2 段、広し。

- ・ 水場：聖東尾根取付きである出会所小屋跡を聖沢方向へ。また、千枚から樺島方面への下山路で最後の橋手前にあり。
- ・ 入山/下山連絡：沼平静岡県警詰所にて。今回、下山時にはすでに撤収後であった。まゆた携帯/実家に下山確認の問合せあり。
- ・ 温泉：赤石温泉「白樺荘」 無料/石鹸あり/シャンプー・リンス・ボディソープ(以上購入可)・ドライヤー無

[食糧:荒キチ]

皆ペミカンを作ってきてくれており、一週間を通じてとても美味しい食事だった。ガス消費量を軽減できた(6泊で大3缶ジャスト)と共に、長期縦走では食事が明日への活力となる事を再確認した。軽量化との両立は常に二律背反だが、質と量の充実を今後も図らねばならないだろう。

お茶類等の嗜好品については、紅茶を中心に用意した。設営直後・夕食後・就寝前・朝食後(行動用テルモス2瓶分含む)の4回/泊が山行を通じてのペースだった。砂糖の消費は6泊で約900g。砂糖入りココア350gと、砂糖が最初から含まれているホットレモン・生姜湯・抹茶ミルクetcを5人前×5泊分用意した点を考慮に入れると、今後の食料計画では5名6泊で1500g、即ち「1人1日50g」で計算するのが妥当と考える。

●メニュー一覧

- 1 泊目 タ：八宝菜丼(ペミカン)、スープ 朝：焼きソバ(ペミカン)
 - 2 泊目 タ：タイカレー(ペミカン、無印良品) 朝：桜エビ入り雑炊
 - 3 泊目 タ：タコ飯、豚汁(ペミカン、乾燥野菜、FD みそ汁) 朝：雑煮
 - 4 泊目 タ：麻婆丼(ペミカン) 朝：トマトチーズリゾット
 - 5 泊目 タ：五目飯(α米)、お吸い物 朝：ラーメン *
 - 6 泊目 タ：ドライカレー(ペミカン、素)、春雨スープ 朝：お茶漬け *
- * 当初食料計画から 5 泊目(計画最終日)と 6 泊目(予備日 1 日目)のメニューを入替えた。
- 1/3 は早めに行動を打ち切り赤石避難小屋泊とし、予備日を使うことが確実にになった為。

[装備:ケムンパス]

ガスの使用量について報告しておく。会の目安では 2 人 1 泊で中 1 とのことなので、これで計算すると 5 人で 6 泊となるので中 15 の計算になるが実際の使用量は中 6 (大 3) であった。今回は中 12 相当量を準備して行った。予備日があと 1 日あること、1 日目に水場があり雪を溶かす必要がなかったことを考慮すると、7 泊 5 人で中 9 ~ 10 もあれば十分という実績になる。食事の作り方による熱使用量に依存するので結論しないが参考までに。今回の食事はペミカンが中心で、フリーズドライ食品は使っていない。

他、エスパースマキシムテントのスーパーフライの冬での使用は問題だろう。カタログを見れば分かるのだが、ベンチレータの配置を見ると、スーパーフライは無雪期用に設計されており、耐風、通気性の両立は無理である。冬用マキシムフライはこの点が解決されているので購入を希望したい。

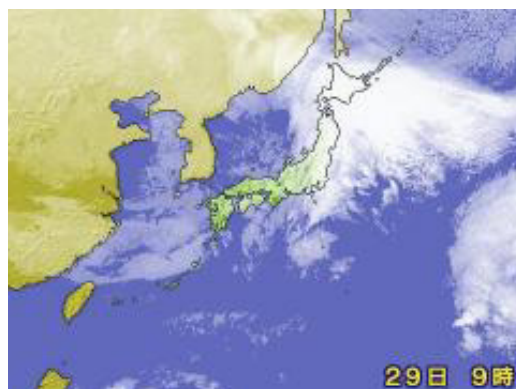
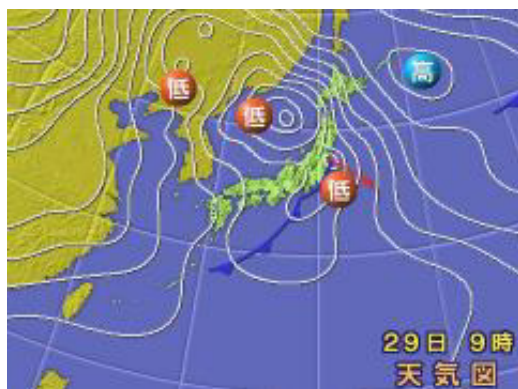
[参考資料]

[天気図@『気象人』]

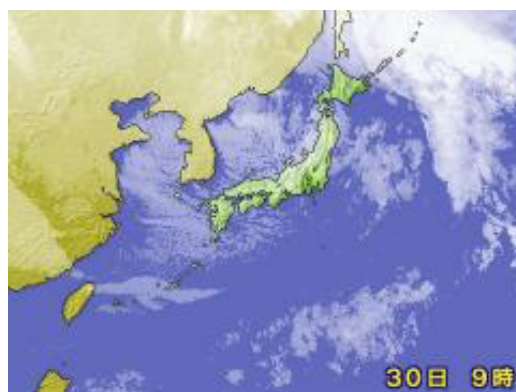
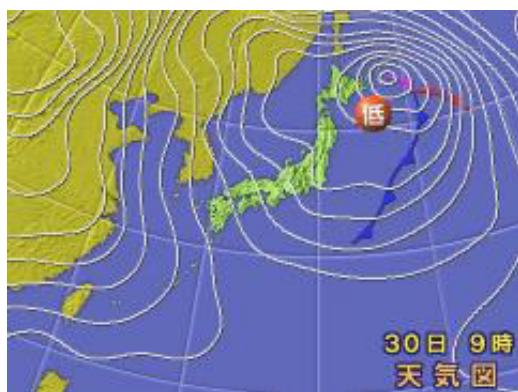
天気図

衛星画像

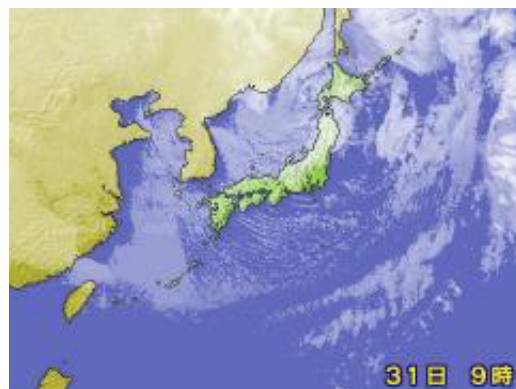
移動日
十二月二十九日



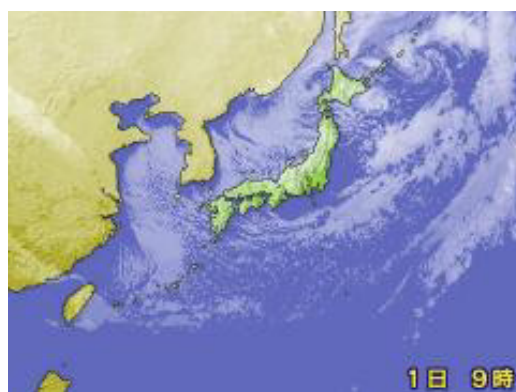
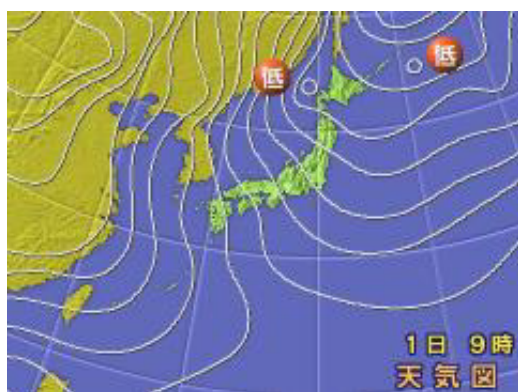
初日
十二月三十日



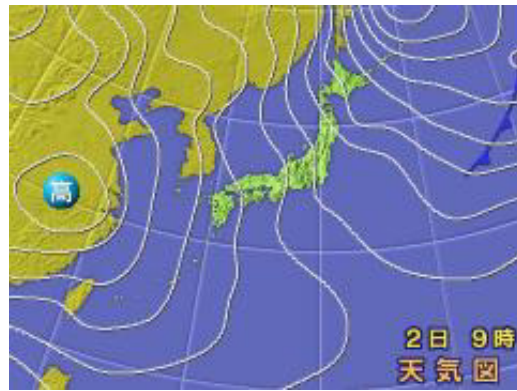
二日目
大晦日



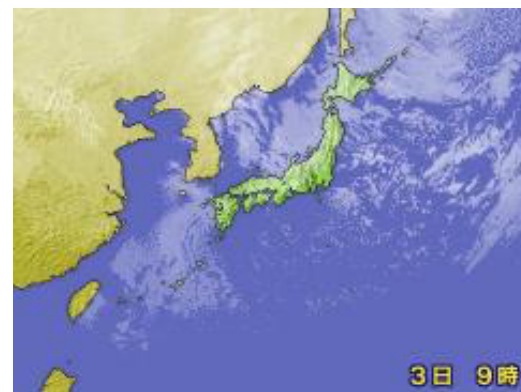
三日目
元日



四日 一月二日



五日 一月三日



六日 一月四日



最終日 一月五日

